

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○福間 麻紀 奥田 かおり 片山 寛信 大原 裕介（客員） 高野 和美（非）

【概 要】

ソーシャルワークに求められる知識と技術について実践的に習得し、専門的援助技術として体系化できる能力を身につける科目である。実践を行うための基本的な知識・技術として、面接技術、個別援助の展開過程、グループワーク、記録の技法、価値と倫理について学ぶ。また、地域における社会資源の開発事例や課題別の相談援助事例を用い、総合的・包括的な援助について実践的に習得する。

【学習目標】

1. ソーシャルワークの展開過程を理解し、その段階に合った支援をソーシャルワークの目的・価値・倫理を踏まえて考えることができる。
2. 個別面接技術・集団面接技術をロールプレイ場面で実際に使用することができる。
3. 地域アセスメントや地域資源の活用について、事例を用いた具体的な評価・計画立案を行うことができる。
4. 事例検討において、利用者に対する共感的理解とソーシャルワーカーに求められる基本的態度を示すことができる。
5. アセスメントやプランニングに必要な知識と技術を習得し、実際に作成することができる。
6. ジェノグラムとエコマップを作成し、ポイントを説明することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション 面接場面の実際	演習の目的について説明できる。 ソーシャルワーク演習 で学習した面接技術を確認し、面接場面において適切な技術を意図的に使用することができる。	福間 奥田 片山 高野
2	相談援助の実際 1 インテーク	個人とのソーシャルワークにおけるインテークの方法を説明できる。 模擬事例を用いたインテーク場面において面接技術を用いて面接を展開できる。	福間 奥田 片山 高野
3	相談援助の実際 2 アセスメント	アセスメントにおける情報収集の項目・方法を説明できる。 模擬事例のアセスメントに必要な情報を収集できる。	福間 奥田 片山 高野
4	相談援助の実際 3 アセスメント	アセスメント記録、エコマップ、ジェノグラムを作成し、情報の整理分析を行うことができる。	福間 奥田 片山 高野
5	相談援助の実際 4 プランニング	支援目標の設定の方法を説明できる。 模擬事例の支援目標を設定できる。 プランニングの方法を学び、模擬事例の支援計画を作成できる。	福間 奥田 片山 高野
6	相談援助の実際 5 支援の実施 モニタリング 効果測定	支援の実施とモニタリングについて説明できる。 支援の実施の面接を行うことができる。 模擬事例の直接的活動と間接的活動について整理できる。 実際に支援の評価を行うことができる。	福間 奥田 片山 高野
7	相談援助の実際 6 終結 アフターケア	終結の決定、終結に向けての準備や取り組み、終結後のフォローアップについて理解し、終結の面接を行うことができる。 事例全体の振り返りを通して、相談援助の全体を説明することができる。 ○単元終了課題 支援計画の作成（事例）	福間 奥田 片山 高野
8	グループワークの共通技術 1	グループワークの実践を通じて、プログラムの立案・ファシリテーターの役割や方法を理解する。	福間 奥田 片山 高野
9	グループワークの共通技術 2	グループワークの実践を学ぶ。 ファシリテーターとしてグループワークの実践を行う	福間 奥田 片山 高野

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		ことができる。 ○単元終了課題 グループワーク実践の感想	
10	記録の技法 1	記録の目的、種類、方法を理解する。 ロールプレイによる逐語記録の作成、要約記録の作成を通して、様々な記録の形式と記載方法、表現の多様性を体験を通して理解する	福間 奥田 片山 高野
11	記録の技法 2	プロセスレコードを理解し、実際に活用方法を学ぶ	福間 奥田 片山 高野
12	模擬面接 1	これまで学んだ面接技術を用い、インテーク面接を展開することができる。	福間 奥田 片山 高野
13	模擬面接 2	模擬面接のふりかえりを通して、個々の習得状況と、面接技術の習得に向けた課題と取り組みを確認する。 ○単元終了課題 プロセスレコードの作成	福間 奥田 片山 高野
14	実習記録の技法 1	実習記録の意義と活用を理解する。 ロールプレイを観察し、実習記録を作成することができる。 ○単元終了課題 実習時の記録を複写し提出	福間 奥田 片山 高野
15	ソーシャルワークの価値と倫理 1	ソーシャルワーク実践における倫理的ディレンマについて、事例を通して判断過程を理解する。 ○単元終了課題 実習時のディレンマ体験レポートの作成	福間 奥田 片山 高野
16	ソーシャルワークの価値と倫理 2	実習におけるディレンマ事例を取り上げ、グループで検討することにより、ディレンマの構造を理解することができる。 ディレンマの対処方法について検討できる。	福間 奥田 片山 高野
17	実習記録の技法 2	実習日誌をチェックシートを用いて評価し、適切な記録方法を習得する。 次回の講義時に必要な事前学習項目の提示（事前学習課題）	福間 奥田 片山 高野
18	地域福祉の基盤整備と開発の実践 —地域住民の対するアウトリーチとニーズ把握—	地域福祉の基盤整備と開発の実践を学ぶ。 ○単元終了課題 講義内容のまとめと感想	大原（客員） 福間 奥田 片山 高野
19	社会資源の把握・活用・調整・開発に関する相談援助演習 1	地域資源の調整・開発、地域ネットワークづくりの実践を学ぶ。 ○単元課題 講義内容のまとめと感想	福間 奥田 片山 高野 小林 真弓（特別講師）
20	社会資源の把握・活用・調整・開発に関する相談援助演習 2	事例を用いて、地域資源の調整と開発について、検討することができる。 用いた事例の利用者と地域のアセスメントができる。	福間 奥田 片山 高野
21	社会資源の把握・活用・調整・開発に関する相談援助演習 3	事例検討により、地域資源の調整と開発、ネットワークづくりについての具体的な方法を検討できる。 次回の講義時に必要な事前学習項目の提示（事前学習課題）	福間 奥田 片山 高野
22	課題別相談援助事例1 低所得・ホームレスに関する相談援助演習	ホームレスの状況にある人を取り巻く問題や生活ニーズについて理解する。 ホームレスへの支援の実践を学ぶ。 ○単元課題 講義内容のまとめと感想	福間 奥田 片山 高野 波田地 利子（特別講師）
23	課題別相談援助事例 1 低所得・ホームレスに関する相談援助演習	事例検討により、利用者のニーズの把握と生活課題の整理分析を行うことができる（アセスメント）。	福間 奥田 片山 高野
24	課題別相談援助事例 1 低所得・ホームレスに関する相談援助演習	低所得・ホームレスの状況にある人の生活上のニーズを充足する社会資源の現状を把握し、必要な支援を検討できる。 次回の講義時に必要な事前学習項目の提示（事前学習課題）	福間 奥田 片山 高野

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
25	課題別相談援助事例2 母子福祉・DVに関する相談援助演習	映像教材や資料を用い、DVによる心理・社会的影響を理解する。 事例検討により、DV・母子世帯の抱える生活の問題を理解する。	福岡 奥田 片山 高野
26	課題別相談援助事例2 母子福祉・DVに関する相談援助演習	ロールプレイを通し利用者の意向や葛藤を理解する。 事例検討による情報の整理分析から、利用者のニーズと生活課題の把握ができる。	福岡 奥田 片山 高野
27	課題別相談援助事例2 母子福祉・DVに関する相談援助演習	必要な社会資源についての検討を行い、支援計画を作成することができる。 今回の講義時に必要な事前学習項目の提示（事前学習課題）	福岡 奥田 片山 高野
28	課題別相談援助事例3 多問題家族に関する相談援助演習	種々の生活困難が生じる社会的背景について検討することができる。 ロールプレイを通して、多様な課題を抱えている利用者の心情や葛藤を理解することができる。	福岡 奥田 片山 高野
29	課題別相談援助事例3 多問題家族に関する相談援助演習	事例の情報を整理分析し、ニーズと生活課題を把握することができる（アセスメント）。	福岡 奥田 片山 高野
30	課題別相談援助事例3 多問題家族に関する相談援助演習	多様な課題に対する支援方法について検討することができる。 ○単元終了課題 アセスメントシートと支援計画の作成	福岡 奥田 片山 高野

【評価方法】

課題9回（50％）、事前学習・グループへの参加度（意欲・姿勢）（40％）、模擬面接（10％）

課題：各単元終了後、課題内容に従いレポート提出（各単元の欠席が過半数に達した場合は受理しない）

【備考】

教科書：・ソーシャルワーク演習の教科書を継続使用（『ソーシャルワーク演習ワークブック』みらい）
・学期ごとにプリントを配布

参考書：参考書：社会福祉士養成講座編集委員会編：『相談援助の基盤と専門職（第3版）』『相談援助の理論と方法』
『相談援助の理論と方法』（2017）中央法規

その他：・基本的に20名以下のグループで学習する。

・各単元終了時にレポート・実技試験により学習到達度を評価する。なお、各単元課題を受験するためには、各単元において過半数以上の出席を要する。

・演習という授業の性格上、遅刻は欠席扱いとする。

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「相談援助演習」、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「精神保健福祉援助演習（基礎）」に該当する。

【学習の準備】

・予習として、次の授業で取り扱う事例を読みこみ、援助技術や用語については教科書や参考書、辞書等を用い、事前に調べてくること。また、後期は事例をグループで検討し発表を行うことが中心となる。検討に必要な資料等を事前に準備しなければ事例を深く理解することができないため、各単元で取り扱う事例に関係する制度政策、社会資源等を事前に調べることを課題とする（事前学習～）。（80分）

・復習として、授業後は毎回必ず振り返り、知識や技術が定着するよう取り組むこと。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,3

【実務経験】

福岡麻紀（社会福祉士）、奥田かおり（ソーシャルワーカー）、片山寛信（社会福祉士）、大原 裕介（社会福祉士）、高野和美（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、相談支援機関、教育機関、社会福祉施設等でのソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、実際の相談援助過程を想定した課題別の相談援助事例による総合的・包括的な援助についての実践的な講義や実技指導を行う。